

# 産後抑うつ症状と児の非言語的コミュニケーションスキルの発達の関連：HBC Study

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河合, 恵美子, 高貝, 就, 土屋, 賢治 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/3301">http://hdl.handle.net/10271/3301</a>

## 産後抑うつ症状と児の非言語的コミュニケーションスキルの発達の関連：HBC Study

河合恵美子 1)、高貝就 1,2)、土屋賢治 1,3)

- 1) 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科
- 2) 浜松医科大学医学部児童青年期精神医学講座
- 3) 浜松医科大学子どものこころの発達研究センター

**背景と目的** 母親の産後抑うつ症状が子どもの言語的コミュニケーションスキルの発達を遅延させることが知られている。本研究の目的は、母親の産後抑うつ症状が子どもの非言語的コミュニケーションスキルの発達を遅らせるか否かについての疫学的検討である。

**方法** 浜松母と子の出生コホートに参加する 951 名の 14 ヶ月児を対象とした。母親の産後抑うつ症状はエジンバラ産後うつ質問票 (EPDS) を用い、児の出生後 1 ヶ月、10 週、40 週に測定した。目的変数としての非言語的コミュニケーションスキルの評価には、日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙を用い、2 つの下位得点 (早期・後期身振り得点) ごとに関連を解析した。

**結果** 母親が出産後 1 ヶ月以内または 10 週後に高水準 (EPDS 得点 $\geq$ 13) の抑うつ症状を呈すると、14 ヶ月時の対象児の早期身振り得点が約 0.5 標準偏差低く、後期身振り得点も約 0.5~0.7 標準偏差低かった。これらの関連は、母親の出産前の大うつ病性障害・不安障害の既往、母乳哺育の有無を含む他の説明因子によっても説明されなかった。

**結論** 産後抑うつ症状を呈する母親の子どもに非言語的コミュニケーションの発達遅延が生じやすいことが示された。